

# 幼保小連携・接続モデル実施園公開研修会 報告書【あやめ台幼稚園】

日 時 : 平成 30 年 1 月 30 日 (火) 10:00~12:00

場 所 : あやめ台幼稚園

## 参加者数

種別	園(校)数	参加人数
私立幼稚園(認定こども園)	17	23
民間保育園(認定こども園)	8	8
公立保育所(認定こども園)	6	7
小学校	3	3
その他(大学・千葉県など)	4	8
合計	38	49



## 千葉市の幼保小連携・接続の取組(千葉市幼保支援課)

資料に基づき、千葉市幼保支援課から説明

## モデル実施園の取組成果発表(あやめ台幼稚園)

《担任先生から年長児の保育について説明》

- アプローチカリキュラムの作成に携わっていく中で、子どもたちに話し合いを任せてみようと思った。任せてみると、子どもたちが1つ1つ納得しながら話を進めていくことができた。その姿をみて、これまで必要以上に介入してしまったことに気付いた。
- 自分たちで作ったもの(指人形)を大切に思っているからこそ、約束を守ろうとする規範意識が芽生えてきたように感じる。言葉による伝え合いを重点的に取り組んできたが、その成果が表現遊びの中にも見えてきた。
- 時計を見て行動することに力を入れてきた。前もって集まりを始める時間を伝えたりすると、子どもたち自身が時間を意識して行動できるようになってきた。
- 絵本・紙芝居などの活動の中から文字に興味を持つようになり、勉強するという意識ではなく、友達同士で楽しみながら文字を書く姿が見られるようになった。

《木村主任から成果発表》

- アプローチカリキュラムの作成にあたり、年長組経験のある教職員でプロジェクトチームを結成し、これまでの保育(10月~3月)の中で、どのような援助、配慮、環境構成をしてきたかを、個々に書き出した。
- 書き出したものを月・週ごと、活動内容ごとで分類し、配慮や環境構成が10の姿のどの項目に強く当て

はまるかを書き加え、月ごとに考察して共通理解につとめた。

- 考察した内容をデータ化し、またカリキュラムの形式についても話し合いで決定。従来の指導計画を参考に、月案・週案が一緒になった形式となった。しかし、段階を経て経験する活動・行事などについては記載しやすい反面、生活面など継続して指導する内容についての記載が難しく、「生活について」(1月からは「月をとおして」としてまとめて記載した。
- 今年度、はじめて1年生の授業参観や教職員同士の意見交換会を実施。1年生が教師の話を理解していたり、発表会では自分たちの役割を強い意識をもって取り組んでいることなどに対し、1年生が思っているよりもできることが多くて驚いたと、小学校の先生から意見があった。
- 小学校との交流については、毎年実施している交流会や、幼稚園の音楽発表会リハーサルに小学生を招待するなど、様々な活動を行っている。子どもたちがこのような交流を通じて、小学校への憧れや機体を強くもつことをあらためて感じた。
- また、教職員同士の意見交換で、互いの配布物(学校だより・学年だより、給食だより、行事予定など)を交換することとなり、幼稚園では掲示コーナーを設けている。掲示をして、保護者や園児が小学校の教育内容や活動の状況をわかるようにすることで、保護者も小学校の教育内容を理解して、安心感をもって小学校への入学に備えられると思う。
- アプローチカリキュラムの作成を通して、同じ活動でも、教師によって配慮や援助が異なっていること、自分だけでは気付かないことなどを感じ、様々な視点から考えることの大切さを理解した。今後、それらを精選してカリキュラムに取り入れ、教師の経験によるのではなく、指導計画を見れば細かな配慮等について共通に理解できるようにしていきたい。
- 今後の課題としては、週ごとに分けて記載することで、新任教師にとっての目安になる反面、実際の子どもの様子を捉えながら柔軟に対応し指導する力が求められること。また、活動に対する配慮点を細かく記載することで、情報量が多く見づらいのが難点。月ごとの連続性の点も弱いところであり、6か月を通して見たときの成長が分かるようにしたい。
- 今年度は現行形式で作成し、考えられる配慮点を洗い出すこととする。次年度以降は今年度の実践と反省を踏まえ、全体を通じた際の10の姿の育ちにつながる活動、配慮がバランスよく行えているかを見直していきたい。

#### 近隣小学校からのお話(あやめ台小学校 宮澤校長)

- あやめ台幼稚園の特色でもある「経験・活動」、これが最も重要であると思う。
- 今までやってきたことを、あらためて「10の姿」の視点で整理し、意図的・計画的に取り組んでみて、結果として「10の姿」が育っているという考え方は、まさにそのとおりである。
- 小学校生活はますます忙しくなっているが、本当は、子どもたちにたくさん遊んでもらい、様々なことを経験させてあげたいと思っている。幼稚園・保育所の生活でも、子どもの目が輝くような様々な体験を積んで、その体験の中で子どもが感じた感性を大切にしていってほしい。そういった経験の中で得られた知識は、子どもにもしっかりと身につけていく。
- 接続期のカリキュラムなどを通して、皆で知恵を出し合って、子どもの気持ちを育てていきたい。

カリキュラムコーディネーターからのお話(千葉大学教育学部 富田久枝 教授)

- モデル実施園として、園全体で熱心に取り組んだことにより、あやめ台幼稚園が最も大きな収穫を得たと思う。素晴らしかった点は、アプローチカリキュラム作成の最初の段階で、自分たちの経験をもとに10月以降の取組みを付箋に書き出し、経験の再構成を行ったこと。等身大の自分たちの活動を洗い出してみるといふ真摯な取組姿勢は、先生たちの成長につながっている。
- 幼稚園も小学校も、お互いの教育や生活内容をよく理解できていない。子どもにとっての段差もあるが、それ以上に教職員にとっての段差をいかに小さくしていくかが重要と感じている。交流活動も、ただ実施するのではなくて、あくまで初めの一步。研究会などの形をとらなくとも、先生同士がお互いに立ち寄って参観したりして、教職員同士が段差を小さくしていくことで構わない。
- 子どもの姿には、知りたい・学びたい・やってみいたいなど、たくさんの“たい”がある。そこを、どこまで子どもに任せていくか、その心意気と勇気、そして任せるからには、最大限の安全と環境の配慮が必要。それにより、子どもは驚くほどの学びを身につける。自分でやりたいという子どもの気持ちを、丁寧に読み取って実現させていくということが、アプローチカリキュラムにとって重要な点になる。
- あやめ台幼稚園の姿勢・取組みが各園に波及していき、各園それぞれのやり方で、それぞれの地域(園・小学校・子ども・保護者)での関係構築に繋がっていくことを期待したい。

質疑応答

Q: 卒園生が幼稚園に遊びに来れるような取組みはあるか。

A: 幼稚園では、1年生の夏休みに「ミニ同窓会」を行っており、先生や友達と再会できる機会を作っている。その時に、子どもたちに小学校で困ったことなどを聞いてみると、トイレの問題や校舎が大きいなどの話が出てくる。園としても、そういう話に接続のヒントがあると思っている。

《アンケート結果》

1 参加者情報(アンケート記入者)

私立幼稚園 (認定こども園)	民間保育園 (認定こども園)	公立保育所 (認定こども園)	小学校	その他	合計
20	7	6	2	6	41

2 公開研修会の内容について

- ①大変参考になった ②参考になった ③あまり参考にならなかった ④参考にならなかった ⑤どちらともいえない ⑥未記入

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
千葉市の幼保小連携・接続の取組み	19	17	2	2	1	0	41
モデル実施園の取組成果発表	25	11	1	2	2	0	41
近隣小学校からのお話	17	17	2	3	2	0	41
カリキュラムコーディネーターからのお話	18	15	1	3	2	2	41

### 3 公開研修会全体について(理解の深度)

①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤未記入

	①	②	③	④	⑤	合計
幼保小連携・接続への理解	28	13	0	0	0	41
取組みにおける理解	24	17	0	0	0	41
カリキュラム作成・見直しの参考	29	11	0	0	1	41

### 4 最も印象に残った内容／カリキュラム作成・見直しにあたり参考になった内容(抜粋)

- 月案等に活動の内容や援助に対し、10の姿と結びつけて見たり考えたりして見直しているところが大切だと思った。日頃実施していることを10の姿の観点で整理して、構築し直していくことが必要だと思った。
- 幼稚園の先生方が園児の意見を大切に、言葉で表現できるような援助を行っている。なかなか、言い出せない子に対しても、待つ、安心して発表できるような対応が印象的でした。自分の配慮してきた点を書きだし、振り返り共通理解することでお互いに思いもわかり、自分の課題も見える。10の姿を書き出す作業を取り入れ、共通理解、職員の意識づけにつなげていきたい。
- 小学校の先生との情報交換の大切さを学ぶことができました。小学校の先生が幼児期の教育でどのような学びを子どもがしているのか理解することが大切だと思いました。家庭との連携の視点を新しく学びました。子ども同様、保護者においても小学校の教育への理解を示していく必要があるかと思いました。
- この機会ですべて幼稚園の新しい教育要領の大きな改訂点を知ることができた。小学校は幼稚園とも中学校とも連携が必要なので、改めて見直していきたいと思った。この10の姿を小学校入学前で終わらすのではなく、入学後も意識することを継続する必要があると感じた。また、小学校入学前にすでに育っていることをしっかりと伸ばしていくことが小学校の役割なのだと考えた。

### 5 研修会全体に対する意見・感想(抜粋)

- 参加者どうしで、情報交換していく、そこにあやめ台幼稚園の先生方が参加し、さらに研修の過程を詳しく教えていただく機会もあると、さらに深まっていくと思った。園に持ち帰り役たてたいと思います。
- 今回は幼稚園での取り組みを学ばせていただきましたが保育所、認定こども園での取り組みも非常に興味がわきました。実際に自分も取り組んでいく前に情報が得られるとよいと思いました。勉強していきたいです。
- 現在小学校で算数を中心に指導しているが、時計の読み方や量感、数の概念などは机上で学ぶのではなく、幼少期からの生活体験で学び、自然と身に付けていくものなのだと改めて感じた。幼稚園で時計を読めるように指導してくださっているのに、小学校で「長い針」と言ってしまうと、はたしていいのか…。教科書で学ぶ順を意識するよりもその子供たちにより沿った指導をしていきたいと思った。
- 幼保小接続については幼・小共に人的、時間的余力があまりないことが分かった。やはりコーディネーターの方々のサポートがとても重要で、コーディネーター無では難しいと思う。市内の園や幼協会とも連携してこういった機会は増やしてほしい。